

# 新型コロナウイルス感染症流行下の行動変容とメンタルヘルス、 パーソナリティの関連性

谷 伊織<sup>1)</sup>

## 1. 研究目的・背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるパンデミックは、世界的に多くの人々に影響を及ぼし、生活様式や社会生活などに大きな変化をもたらした。2020年以降、関連する心理学研究も急激に増加しており、Obschonka ら (2021) の初期の COVID-19 に関する心理学研究 79 本のレビューによると「不安」「メンタルヘルス」「社会」「うつ病」「恐怖」「健康」「異文化」「行動」「ストレス」のキーワードが比較的多くの研究で見られることが報告されている。分野としては臨床心理学と健康心理学に関する領域が多数であるが、それらに次いでパーソナリティ領域も多いことが指摘されている。

パーソナリティ領域の研究を概観すると、多くは新型コロナウイルス感染症流行下における心身の健康問題（抑うつ・不安・恐怖・ストレス・精神疾患など）に焦点が当てられており、パーソナリティ変数として Big Five がそれらに影響を及ぼす個人差要因として扱われているものが多く見られる。例えば、ドイツにおける大規模な調査では、Big Five と COVID-19 に対する恐怖、感染の安全に関連する行動との関連を検討しており、感染への恐怖は神経症傾向との間に正の関連、外向性・調和性・誠実性との間には負の関連が示されると同時に、COVID-19 への恐怖が神経症傾向を介して安全行動に結びつく可能性が示された (Fink et al., 2021)。他にも、外向性が低い人ほど社会的距離をおき、誠実性が高い人ほど社会的なパンデミック封じ込め策を守る傾向があること (Carvalho et al., 2020) や、開放性や神経症傾向、調和性が高い人が買いだめ傾向を行う傾向が見られること (Yoshino et al., 2021) など、さまざまな研究が行われ、新しい知見が得られている。一方、多くの心身の健康に関する問題と Big Five との関連についてはパンデミック以前と同様の結果も多くみられ、ある程度は一貫して解釈可能な研究が多いと考えられる。

近年、Krueger, Caspi, & Moffitt (2000) は、Epidemiological Personology (疫学的パーソナリティ心理学) という用語を用い、パーソナリティ特性研究における疫学的視点の導入の必要性を説いている。疫学的パーソナリティ心理学とは、問題があると考えられる結果変数である自殺や精神疾患などの行動を、継時的に安定しているパーソナリティ特性変数によって予測・説明し、問題への早期介入や心理的健康の増進等の可能性を検討するものである。既に多くの研究報告より、パーソナリティ特性は実に多様な結果変数に対して予測可能であることが示されており (Ozer & Benet-Martínez, 2006)、他国ではこのような知見の蓄積が教育・公衆衛生に関する政策や意思決定に反映されているが、我が国における研究成果は乏しい。

そこで、本研究ではこの観点から新型コロナウイルス感染症流行下における精神的・身体的健康とパーソナリティの関連性を検討することを目的とする。具体的には、調査会社を介して一般成人を対象とした Web 調査を行い、パーソナリティ特性とメンタルヘルスや身体的健康、社会適応状態の関連を明らかにする。

---

1) 愛知学院大学心理学部・心理学科  
連絡先：E-mail：iorit@dpc.agu.ac.jp

## II. 方法

### 1. 調査対象者と手続き

ウェブ調査会社を通して調査を実施し、完全回答の得られた668名(男性322名、女性346名)、平均年齢50.32歳(SD = 17.10, 範囲18歳-89歳)を分析対象とした。

### 2. 調査内容

**Big Five 尺度短縮版** 和田(1996)のBig Five尺度をもとに並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口(2012)によって作成された尺度を用いた。全29項目に7件法で回答を求めた。

**邦訳版ストレスマインドセット尺度(SMM-J)** Crum, Salovey, & Achor(2013)によるGeneral Stress Mindset Measureの日本語版(岩本(大久保)・竹橋・高, 2020)を用いた。全8項目に5件法で回答を求めた。

**2項目自尊感情尺度** 評価的側面と受容的側面から全般的な自尊感情を測定する箕浦・成田(2013)の尺度を用いた。全2項目に5件法で回答を求めた。

**主観的健康感尺度(SUBI)日本語版** 心理的・身体的・社会的側面からのWell-beingをポジティブとネガティブの2つの側面から測定するSell & Nagpal(1992)によって開発された主観的健康感尺度(SUBI)を藤南・園田・大野(1995)が翻訳した尺度から、身体的不健康の下位尺度のみを用いた。全6項目に3件法で回答を求めた。

**新型コロナウイルス恐怖尺度** Ahorsu et al.(2020)によるFear of Coronaviruss-19 Scale: FCV-19Sの日本語版(太刀川・根本・田口・高橋・小川・白鳥・高橋, 2020)の項目に加え、独自に2項目を追加して用いた。全9項目に5件法で回答を求めた。

## III. 結果

### 1. 項目分析・信頼性分析・因子分析

各項目の分布を確認後、Big Five短縮版とストレスマインドセット尺度の確認的因子分析、各尺度の信頼性係数の算出を行った。確認的因子分析(最尤法)の結果、Big Five短縮版の適合度指標はCFI = .806, RMSEA = .093であり、ストレスマインドセット尺度はCFI = .962, RMSEA = .084であった。一部、経験的基準よりもやや低い適合度指標も見られたが概ね良好であった。信頼性係数としてCronbachの $\alpha$ 係数を算出したところ、Big Five短縮版は $\alpha = .81-.88$ 、ストレスマインドセット尺度は $\alpha = .83-.84$ 、SUBIは $\alpha = .77$ 、新型コロナウイルス恐怖尺度は $\alpha = .88$ であり、2項目自尊感情の項目間の相関係数は.56であった。各尺度について、十分な信頼性が認められた。

### 2. 相関分析・回帰分析

Big Five短縮版尺度の各下位尺度とそれぞれの尺度との関連を検討するために相関係数を算出した(Table 1)。

Table 1. 各尺度間の相関係数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 外向性									
2 誠実性	.33 **								
3 情緒不安定性	-.46 **	-.36 **							
4 開放性	.56 **	.32 **	-.35 **						
5 調和性	.40 **	.50 **	-.44 **	.39 **					
6 ストレス有害	.14 **	.06	-.28 **	.13 **	.12 **				
7 ストレス有益	-.13 **	.03	.12 **	-.19 **	-.03	-.57 **			
8 自尊感情	.50 **	.35 **	-.45 **	.55 **	.40 **	.14 **	-.11 **		
9 身体的不健康感	-.15 **	-.10 *	.40 **	-.09 *	-.22 **	-.24 **	.12 **	-.15 **	
10 新型コロナ恐怖	-.02	-.05	.19 **	-.02	-.11 **	-.10 **	.01	-.02	.30 **

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

まず、新型コロナ恐怖は、Big Five の情緒不安定性との間に有意な正の相関、調和性との間に有意な負の相関が認められた。次に、身体的不健康感も Big Five の情緒不安定性との間に有意な正の相関、外向性・誠実性・開放性・調和性との間に有意な負の相関が認められた。また、また、自尊感情は Big Five の情緒不安定性との間に有意な負の相関、外向性・誠実性・開放性・調和性との間に有意な正の相関が認められた

### 3. 回帰分析

次に自尊感情、主観的健康感および新型コロナウイルス恐怖尺度を目的変数、Big Five、ストレスマインドセット、年齢、性別（ダミー変数）を説明変数とした階層的重回帰分析を行った。年齢と性別を第1ステップ、Big Five、ストレスマインドセットを第2ステップとして投入した。その結果、自尊感情、主観的健康感および新型コロナウイルス恐怖尺度のいずれについても決定係数は有意であった。自尊感情は Big Five の情緒不安定性から負、外向性・誠実性・開放性・調和性から正の有意なパスが認められた。主観的健康感も Big Five の情緒不安定性から負、調和性から正の有意なパスが認められた。新型コロナへの恐怖は Big Five の情緒不安定性から負の有意なパスが認められた。

## IV. 考察

本研究では新型コロナウイルス感染症流行下における精神的・身体的健康とパーソナリティの関連性を検討するために、Web 調査を行った結果、性別や年齢の影響を考慮してもなおパーソナリティ特性からメンタルヘルスや身体的健康、新型コロナへの恐怖への説明が可能であることが示された。Big Five の中では情緒不安定性がそれぞれの側面に影響を与えており、これらの結果は他の同様の先行研究と同じ傾向であった。パンデミック以前の研究と比較しても、変数間の関連性については同様の結果が得られたと考えられる。

## 謝辞

本研究の一部は愛知学院大学心身科学研究所の研究助成を受けて行われました。ここに記して御礼申し上げます。

## 引用文献

- Ahorsu, D.K., Lin C.Y., Imani, V., Saffari, M., Griffiths, M.D., Pakpour, A. H. (2022). The Fear of COVID-19 Scale: Development and Initial Validation. *International Journal of Mental Health and Addiction*, 20, 1537-1545.
- Carvalho, L. de F., Pianowski, G., & Gonçalves, A. P. (2020). Personality differences and COVID-19: are extroversion and conscientiousness personality traits associated with engagement with containment measures? *Trends in Psychiatry and Psychotherapy*, 42, 179-184.
- Fink, M., Bäuerle, A., Schmidt, K., Rheindorf, N., Musche, V., Dinse, H., Moradian, S., Weismüller, B., Schweda, A., Teufel, M., & Skoda, E.-M. (2021). COVID-19-Fear Affects Current Safety Behavior Mediated by Neuroticism-Results of a Large Cross-Sectional Study in Germany. *Frontiers in Psychology*, 12, 671768.
- 藤南 佳代・園田 明人・大野 裕(1995). 主観的健康感尺度(SUBI)日本語版の作成と、信頼性、妥当性の検討. 健康心理学研究, 8, 12-19.
- 岩本(大久保) 慧悟・竹橋 洋毅・高 史明(2019). ストレスマインドセット尺度の邦訳および信頼性・妥当性の検討. 心理学研究, 90, 592-602.
- Krueger, R. F., Caspi, A., & Moffitt, T. E. (2000). Epidemiological personology: The unifying role of personality in population-based research on problem behaviors. *Journal of Personality*, 68, 967-998.
- 箕浦 有希久・成田 健一(2013). 2項目自尊感情尺度の開発および信頼性・妥当性の検討. 感情心理学研究, 21, 37-45.
- 並川 努・谷 伊織・脇田 貴文・熊谷 龍一・中根 愛・野口 裕(2012). Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討. 心理学研究, 83, 91-99.
- Obschonka, M., Cai, Q., Chan, A. C. Y., Marsalis, S., Basha, S. A. J., Lee, S.-K., & Gewirtz, A. H. (2022). International psychological research addressing the early phase of the COVID-19 pandemic: A rapid scoping review and implications for global psychology. *International Journal of Psychology*, 57, 1-19.
- Ozer, D.J., Benet-Martínez, V. (2006). Personality and the prediction of consequential outcomes. *Annual Review of Psychology*, 57, 401-21
- Yoshino, S., Shimotsukasa, T., Hashimoto, & Oshio, A. (2021). The association between personality traits and hoarding behavior during the COVID-19 pandemic in Japan. *Personality and Individual Differences*, 179, 110927.

